

MyStars 通信

No.38

December 2013

マイスターズ登録者の皆様いかがお過ごしでしょうか。『MyStars通信』38号ができましたのでお送りします。2013年10月末現在の登録者数は9179名です。今年は目立った天文ショーがなくてちょっと寂しかったですが、締めくくりにアイソン彗星が見られるかもしれません。



金毘羅神社と国際宇宙ステーション

初山別村豊岬漁港のとなりに金毘羅神社があります。昔、このあたりに金毘羅様の御札が流れ着き、地元の漁師が奉ったところ、以後この付近での海難事故が減ったと言い伝えられています。初山別村に来られて、この神社をご覧になられた方も多いのではないのでしょうか。

10月22日に宇宙ステーションが北斗七星の中を通過するタイミングで、鳥居とともに写してみました。海岸から見ると北西方向になり、夕方の月や金星などが同じ方向に見えることがあるため、撮影のスポットになります。ただし、ここには照明がありませんので足元は真っ暗です。

綺羅星・星座ガイド

オリオン座

オリオン座と言えば、星座の知名度では1、2を競うくらい有名ですね。冬の星座の代表的存在で、1等星が2個、2等星が5個もあり真ん中にある『三ツ星』は有名です。

神話のオリオンは猟師で、『この世に自分より強いものなどおらぬ』と豪語するほどの自信家でした。それを齒がゆく思っていた女神ヘーラは、オリオンの元にサソリを送り付けました。オリオンはサソリを踏みつけようとしたのですが、毒針に刺されあっけなく死んでしまったのです。

オリオンはサソリに恐れをなし、さそり座が西に沈むころ東の空に現れ、さそり座が東に出てくるころにはそそくさと西の空に沈み、決して同じ空には見えないのだそうです。

オリオン座にはベテルギウスとリゲルと言う二つの1等星があります。ベテルギウスはオリオンの肩にある赤



い星で、リゲルは左足にある青白い星です。ちょうど三ツ星をはさんであるところから、日本では源氏星（リゲル）、平家星（ベテルギウス）とも言われます。ベテルギウスは最近ちょっと注目されている星です。この星は赤色超巨星といわれる巨大な星で、直径が太陽の700倍以上もあるのですが、大変不安定な状態にあり、まもなく大爆発（超新星爆発）すると予想されています。距離が500光年も離れているので直接の被害はないかもしれませんが、爆発すると満月くらいの明るさになると言われています。1点から出る光ですから強烈な明るさに見えるでしょう。これほどの明るさですから昼間でも肉眼で見えます。



爆発の時期は1000年後か、1万年後か、もしかすると明日かもしれません。

リゲルは青白い星で、直径は太陽の60倍ほどある青色巨星です。青白い星は表面温度が高くおよそ1万2000度ほどあります。このような星は燃料の消費が激しいため、寿命の短い星が多く、たいてい50億年以内（太陽は100億年）に消滅してしまいます。リゲルは二重星で望遠鏡で

見るとすぐ近くに7等星があります。光度差が大きいので少し高めの倍率で見るとわかりやすいです。

オリオン座には有名な星雲が多く、オリオン大星雲をはじめ馬頭暗黒星雲、ウ



ルトラマンの故郷でおなじみのM78星雲などがあります。馬頭暗黒星雲は暗いので見るのは困難ですが、大星雲やM78は家庭の望遠鏡でも見ることが出来ます。星雲は写真で見ると実にカラフルな色をしているので、望遠鏡でも同じように見えるものと期待して覗くと、なにやらモヤーっとした白い雲のようにしか見えません。これは、人の目は可視光線しか見えませんが、カメラでは紫外線から赤外線まで、とらえられる波長の範囲が広いからです。星雲は赤外線に近い波長を多く出しているため赤く写るのです。

かに座

かに座はふたご座としし座の間にある星座で、明るい星がなく見つけにくい星座です。ギリシャ神話ではヘルクレスと戦った勇敢なカニなのです。ヘルクレスはヒドラ（うみへび座）を退治しようと戦っていました。友だちのヒドラに危機が迫ったとき、大ガニが沼から出てきて、ヘルクレスの足を大きなはさみでガシッとつかみました。しかし、そんなことには怯まないヘルクレスは、大ガニを踏み潰してしまいました。

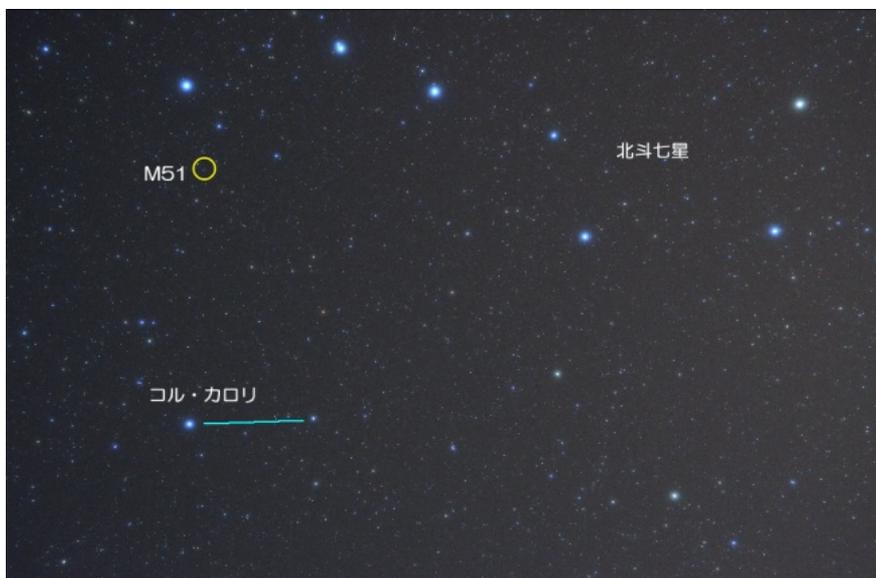


このようすを天から見ていた女神ヘーラが、その勇敢な功績をたたえ星座にしたと云うことです。

かに座には1等星どころか3等星もありません。一番明るい星は3.8等星のベータ星・アルタルフという星で、星座の形をたどるのも大変です。また、特に目を引く星もなく誕生日星座の中ではさみしい限りですが、ふたご座としし座のまん中あたりをよーく見ると、何やらぼんやりとした光の塊が見えます。肉眼では雲の切れ端のようですが、双眼鏡で見ると数100個の星が見えてきます。



これはプレセペ星団と言う星の群れで、100個ほどの星が集まった星団です。この近くに黄道（太陽の通り道）があり、しばしば月や惑星が通り過ぎます。プレセペ星団の南に小ぢんまりとしたM67と言う星団があります。プレセペ星団のように広がっていないので、こちらの方が星団っぽくみえます。



りょうけん座

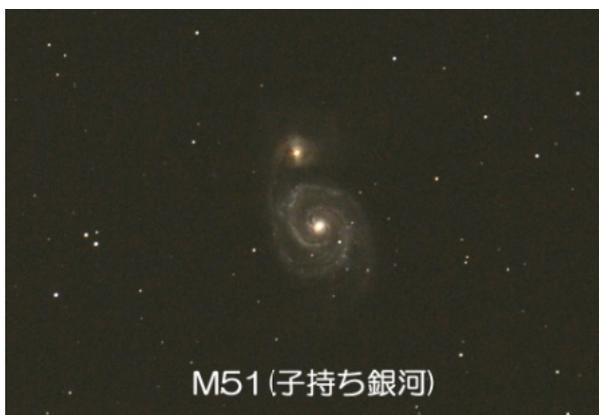
北斗七星のとなりにあるりょうけん座は、大熊を追う2匹の猟犬の姿が描かれています。大熊はニンフ（森や泉の精）カリストで、小熊はカリストの子アルカスの姿です。カリストは女神アルテミスの怒りをうけ、熊に変えられたのです。その熊をこの猟犬が追い立てる姿が星座になっているのです。



りょうけん座で目立つ星はコル・カロリという3等星ですが、この星を望遠鏡で見るとすぐ近くに5.4等星が見えます。小型の望遠鏡でも見えますからお試しく下さい。

コル・カロリとうしかい座のアルクトゥールスの間に、M3と言う球状星団があります。球状星団は何十万個もの星がボールのように丸く集まった星の集団で、銀河系を取り囲むようにある天体です。小型の望遠鏡ではぼやけた星のようにしか見えませんが、大きな望遠鏡では星の大集団と言うことがわかりま

す。北斗七星の柄の先の近くにM51と言う銀河（渦巻き星雲）があります。二つの銀河が接近しているところから子持ち銀河とも呼ばれます。渦巻き銀河はたくさんありますが、渦がわかるものは意外と少なくたいてい淡い光のシミ程度です。この銀河は真上から見ている状態で、大きな望遠鏡で見ると渦巻状になっているのがわかります。他にもM63、M94、M106など見やすい銀河がたくさんありますので、機会があれば見てみましょう。



「Mystars通信」の天文図はStellaNavigator9(AstroArts)を使用しています

綺羅星列伝

今回は2遍ご覧ください。皆さんの星物語よろしくお願ひします。お寄せいただいた物語はしょさんべつ天文台にあります。いつでも閲覧できますのでお立ち寄りの際はご一読ください。

星の名前 : **Star Yamaguchi Kurumi**

8番目の孫の誕生日にマイスターズ宣言の企画を知ったのは何という幸運でしょう。早速応募して申し込み、その登録証が昨日送られてきました。娘夫婦に渡したところ、たいへん喜んでくれました。送付の中にはその第2弾ともいべき「星の物語」寄稿の案内が入っており、また嬉しくなりました。私にも小さな星に関する思い出があったからです。

最初の思い出はずいぶん昔になります。結婚して子どももふたり生まれ、平穏な生活を送っていたのですが、私の願ひは家族そろって教会に行くことでした。その当時わたしは日曜日に勤務する仕事に就いていたのです。

ある日わたしは札幌の街を歩いていました。日も暮れやがて空は群青色になり次第に暗くなり、やがて星が見えてきました。暫らくすると西の彼方から一つの星が光を放ちながら降りてくるように見えました。短い瞬間でしたが、それは流れ星のようではなく、上から下に向かって降りるような感じに見えました。数秒でしたが不思議な気持ちに囚われていました。何だかそのとき好い事が起こりそうに感じました。

そんなことがあって暫らく経ってから私は家族そろって教会にいけるようになったのです。仕事を変える決心をし、日曜日に休めるような職場に就くことができたのです。その後もう一回仕事を変えましたが、以来娘家族みなそろって教会に集い今日を迎えています。

もう一つの思い出は3年前の夏のことでした。私はもう一人の娘家族が住むアメリカユタ州に3ヶ月滞在しているときでした。娘の夫とボーイスカウト・キャンプに子供たちの付き添いとして参加しました。6日間テント生活をしたわけですが、一晩だけテントではなく、寝袋だけで夜を過ごすことになりました。標高2000メートルくらい、満天の星を仰ぐ体勢で眠りにつきました。でも背は痛く、寒さもありましたが、輝く星があまりに美しいせいもあって、とうとう一睡もしないまま朝を迎えたのです。夜空は天の川に沿って無数の星が輝き、その数の多さに驚きました。時々流れ星をいくつも見ました。そして夜間飛行機や人工衛星と思われる飛行物体も目にしました。時間はそれほど長いようには感じませんでした。いろいろなことを想像していたからだと思います。広大な宇宙、地球もその銀河系の中にあること、そしてなぜこの美しい地球上で人は争うのか、なぜこんなに多くの生き物が存在するのか、なぜ多くの星が存在するのか、などなどです。その時は夜空を独占してしまったような妙な満足感に浸っていました。これが2つ目の思い出です。

今でもそのときの情景が時々目に浮かびます。それ以来、星に対する愛着のようなものが心の奥に留まっていたのだと思います。ですから今度の機会の訪れは3つ目の思い出の始まりでもあるように感じています。つまり私の星物語は続いており、孫に引き継がれてい

くような気がしているのです。

いつか孫が大きくなり、自分の星を確かめる機会があると信じています。その時私は確実に地球という星から離れています。次の世界へ旅立っているのです。宗教でいう来世です。歌の文句にある、お墓の中にはいません。きっとドラゴン座の命名の星にいます。初山別の天文台できっと確認することが出来ると思います。人はみな永遠の存在であることを信じています。ですから悲しみはしばしのこと、また家族は永遠でふたたび会うことができるという希望があります。星物語は永遠に続くのです。

愛する来実よ、あなたの名は未来に向かって実を結ぶようにと両親の願いがこめられています。そして家族よ、各々自分の人生の物語の主人公として望みを育て、それぞれの物語を完成させて欲しいと願っています。

2012・2・1

祖父 より

星の名前 : NAOMI SAN

私は昔から上をグーウと向いて遠い遠い星を見るのが大好きでした。星の名前とか星に関してくわしいわけではないんですが、ただただキレイな星をながめていると空にすいこまれそうで、気持ちがおちつくんです。

夜、愛犬杏里の散歩の途中とか、嫌な事があっておちこんでいる時、試験の後疲れた時など、よく星をながめていました。

大きな空と星を見ているとなぜか“大丈夫”“やってみよう”と前向きに考えられるから不思議です。

そんな私も去年の9月に、最愛の人と結婚しました。

そして初山別村の方から、星のプレゼントが届きました。新しいスタートをきった私に、いつまでも天から見てほしい・・・そう思いもう一人の自分、私の名前を星につけました。(呼びすては嫌だなぁーと思い、一応“さん”づけにしてみました。^o^)もう一人の私の分身、NAOMISANが見ているゾ!! 頑張ろう! って・・・

何か嫌な事があった時も、どこか遠くで輝いている私の星を見て、何事にも負けずに前へ進んでいきたいです。私ずっーと輝いていきたいなぁー。ちなみに私の星はさそり座、6～8月にみられるそうです。偶然にも私達の新婚旅行は北海道と決めていました。しかも6～8月頃。ピーッピーッとききました。ぜひ、もう一人の私に逢いに行きたいですネ。

これからも、NAOMI をよろしくお願い致します。



こちら情報室

天文情報（12月～5月）

流星・彗星

ふたご座流星群（12/5～12/20）

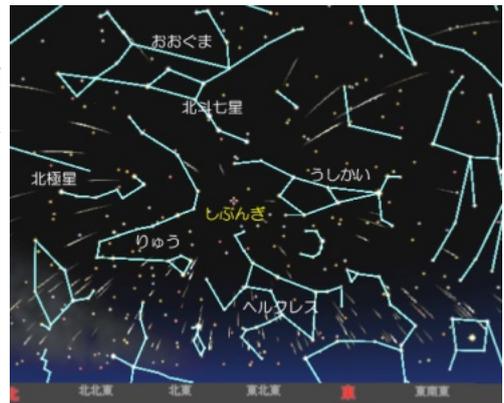
冬の最も活発な流星群で、その数は毎年少しずつ増えてきているようです。最も多く見られる日は14日ですが、10日から15日ころは多く見られます。放射点はカストルの近くで、夕方東の空に見え始め、真夜中過ぎにはほぼ真上に見えます。今年は月齢10の月があることと、ピークが14日の14時ころとすることで少し少なめでしょう。

しぶんぎ座流星群（1/4）

北斗七星の柄の先付近を中心に流れる流星群で、活動期間は1週間ほどありますが、極大の4日以外は大変少ないです。活発な時は1時間に100個以上流れることもあります。今回のピークは4日未明で、新月直後なので月明かりがなく最良の条件です。

こと座流星群（4/16～4/25）

流星群の少ない春としては貴重なものです。数はあまり多くないですが、時々たくさん流れることもあります。こと座のベガ付近を中心に流れますので、眺めてみてください。



彗星を見よう

アイソン彗星（2012 S1）

11月29日に近日点（太陽に最接近する位置）を通過し、12月には夕方の西空に見えているはずですが、夕空では日々右へ移動しますが、明け方の空では東の空で左上に移動し、急速に高度が高くなります。明るさや尾の長さがどれくらいになっているか確かめてみてください。

日食・月食・星食

水星食：12月2日未明に水星が月に隠されます。このときの高度が低く、東の空が地平線まで開けた場所でなければ見られないでしょう。

部分月食：4月15日の日没後、半分ほど欠けた月が上がってきます。アメリカ方面では皆既月食ですが、日本では部分月食のみで、月の出30～40分後には終わってしまいます。図は18時40分のようなので、月の欠け方はこの程度です。西日本の一部では月の出前に終わってしまいます。なお、10月8日には全国で皆既月食が見られます。



惑 星

水星：3月14日は明け方の東空で、1月30日と5月25日は夕方の西空で最大離隔となり見やすくなります。

金星：1月11日に内合となり以後明け方の空。3月23日に最大離隔になります。

火星：4月14日に地球に接近し、5月まで見やすいでしょう。

木星：1月6日に地球に接近し6月まで見られます。

土星：5月11日に地球に接近し9月中旬まで見られます。

天王星：4月2日に太陽の向こう側になり秋まで休みです。

海王星：2月24日に太陽の向こう側になり秋まで休みです。

[連絡事項]

住所・氏名が変更になりましたらご一報ください。星物語はいつでも募集しています。郵便、E-mailどちらでも受け付けますので、お気軽にどうぞ。

「My Stars通信」の送付について、登録番号9184までの方は次号よりホームページ上でご覧ください。なお、インターネット利用環境のない方、すでに郵送希望のお申し出をいただいている方につきましては、今後とも郵送することで考えておりますので、希望者にはご一報いただきたく願います。

天文台のホームページとメールアドレスが4月から変更になっています。新アドレスは下記のとおりです。

~~~~~

### [編集後記]

今年は雨や台風による被害が多かったですね。特に南日本（九州、四国、中国地方）の大雨被害、太平洋側の相次ぐ台風被害など、被災された方にはお見舞い申し上げます。

今年は特に目を引く天文現象が少なく、注目された彗星（パンスターズとアイソン）も今ひとつパツとしません。アイソン彗星はまだ可能性を残していますが、これまでの観測から猛烈に明るくなる可能性は低そうです。が、明るくならないともいえないので、一応注目してみましょう。初山別の冬は天候が悪いので見られない可能性が高いです。

今年は太陽の活動が活発な年のはずですが、小型で短命な黒点が多く、大きく活発なものがあまり出ていません。太陽の状況から推察すると、この冬は少し寒い・・・かも。

( K )

|           |                                                                                                            |                             |                    |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|--------------------|
| 編集・発行     | しょさんべつ天文台                                                                                                  | 〒078-4431                   | 北海道苫前郡初山別村字豊岬153-7 |
| 天文台ホームページ | URL= <a href="http://www.vill.shosanbetsu.lg.jp/shtenmon/">http://www.vill.shosanbetsu.lg.jp/shtenmon/</a> |                             |                    |
| E-Mail    | 教育委員会                                                                                                      | shkyoiku@saturn.plala.or.jp |                    |
|           | しょさんべつ天文台                                                                                                  | tenmon@aurens.or.jp         |                    |